

平成23年度
モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）にかかわる学校支援制度
出雲市国富小学校 実施結果概要

（様式 3-2：実施結果報告書）

実施結果報告書

1. 学習名称： <u>一畑電鉄今昔物語</u>					
2. テーマ： <u>地域の移動手段「一畑電鉄」の大切さについて考えよう</u>					
3. 実施教科：社会科、総合的な学習					
4. 関連単元：郷土の開発に尽くした先人の働き					
5. 実施単元数：24時間					
6. 学年	4学年	7. クラス数	1クラス	8. 児童数	32人
9. 実施内容 <p>子どもたちは、校区内を東西に走っている一畑電鉄について、走る車両を見たり、遠足等で利用したりしていることから、“一畑電車”という名称で親しんでいる。また、地域の唯一の公共交通機関として地域の人たちが移動手段として使っていることも分かっている。</p> <p>学習は、大正4年に作られた「一畑軽便鉄道唱歌」の紹介から入った。そして、歌に歌われている校区内の駅と周辺について確認したり、唱歌の内容を確認しながら電車に乗って出雲大社にまで行ったりした。</p> <p>また、一畑電鉄の歴史を学習して、創設者の思いや当時の様子、建設時の苦勞、開通当時の人々の喜びを学習したりもした。そうして、旧平田市民の足として、百年もの間、多くの人に利用されてきた一畑電車だが、最近では、マイカー利用者の激増により、利用者が減少し存続が危ぶまれていること、しかし、学生や年寄りにとっては大切な移動手段であり、地域の唯一の公共交通機関として守っていかなければならないことを学習した。</p> <p>そして、電車は、蒸気機関車や自動車に比べて二酸化炭素の排出量が少なく、地球温暖化防止にも役立っていることを知らせ、環境にもやさしい一畑電車の存続は、自分たちの未来のためにもなることも学習した。</p> <p>最後に、この学習を通して学んだこと・感じたことをもとに劇と呼びかけ、クイズ等をつくり、学習発表会で、保護者・地域の方に伝えていった。</p>					

10. 学習のながれ：

- ① わたしたちのくらしと一畑電車
 - ・一畑電車を見たり利用したり体験について話し合う。
 - ・「一畑軽便鉄道唱歌」を聞いて、分かったこと感じたことを話し合う。
- ② 鉄道が建設されるようになったきっかけ
 - ・一畑電鉄の創設者「大谷弥吉」の銅像についての存在を知る。
 - ・当時の平田の様子や宍道湖周辺地域の交通の様子を知る。
- ③ 大谷弥吉たちの鉄道建設への思い
 - ・先に作られた国鉄の鉄道を見て人々は、どのように思ったか
- ④ 鉄道建設までの歩み
 - ・鉄道に反対する人々
 - ・資金難
 - ・鉄道開通の日
- ⑤⑥ 開通後の一畑電車と事業の拡大
 - ・軽便鉄道から電気鉄道へ（蒸気機関車から電車に）
 - ・環境にやさしい電車（二酸化炭素の排出量が少ない電車に）
- ⑦～⑪ 近年の一畑電車の利用
 - ・電車に乗って出雲大社へ…沿線や駅の様子
 - ・電車のよさ（自動車と電車の比較…二酸化炭素の排出量が少ない）
- ⑫⑬ 大谷弥吉の功績
 - ・新聞づくり
- ⑭～⑲ 学習発表会に向けての準備
 - ・台本、劇づくり
 - ・練習
- ⑳ 学習発表会
 - ・他学年、保護者、地域の方に学習の成果を発表・発信

※学習で使った教材やワークシート、学習風景を撮影したビデオや写真、指導計画書などを添付して提出してください。